

# 北海道浮魚ニュース

平成 18 (2006) 年度 13号 (通巻 No. 226)

2006年 8月 28日

## 北海道立水産試験場

ホームページ : [http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki\\_index.htm](http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm)

### 道南太平洋スルメイカ南下期調査結果

函館水試調査船金星丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間 : 2006年 8月 21日 ~ 25日
  - ・調査海域 : 道南太平洋 (渡島半島沖 ~ 日高沖 ~ 下北半島沖)
  - ・調査船 : 金星丸 (イカ釣機 5台、イカ用集魚灯 20灯装備)
- 昨年 (2005年 8月 22日 ~ 26日) のデータと比較しました。

#### 1. 水温分布 (図 1、2)

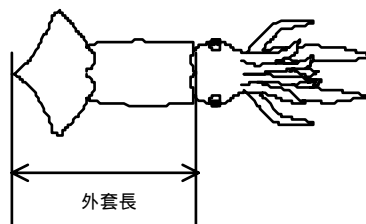
表面水温は 21.7 ~ 24.3 で、昨年 (20.0 ~ 21.6) の同じ時期に比べ 0.8 ~ 2.7 高い値を示しました。50m 層の水温は 11.4 ~ 17.8 で、昨年 (11.0 ~ 14.5) の同じ時期に比べ、日高沖の St.15 で 1.2、恵山沖の St.1 で 0.4 それぞれ低く、下北半島東沖の St.8 で 3.3 高い値を示しました。

#### 2. 分布密度 (図 1、2、表 1)

漁獲調査を行った 4 地点の CPUE (2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) は、恵山沖の St.1 では 4.7 で昨年 (3.4) をやや上回りましたが、下北半島東沖の St.8 では 1.5、日高沖の St.15 では 2.6 と、共に昨年 (それぞれ 26.7 と 23.5) を大きく下回りました。昨年調査のなかった函館沖の St.16 での CPUE は 4.6 でした。全体の平均 CPUE は 3.3 で、昨年の平均 CPUE (17.9) を大きく下回り、2001 年以降で最も低い値となりました。

#### 3. スルメイカの大きさ (図 1、2、3、表 1)

スルメイカの外套長 (胴長) は、調査点全体で 12 ~ 26cm (昨年 15 ~ 26cm) の範囲にありました。モード (最も多く漁獲されたイカの大きさ) は 20 ~ 21cm で、昨年 (19 ~ 20cm) と同じか、やや大きくなりました。



函館沖の St.16 では他の地点に比べてサイズの幅が広く、特に小型の個体が多く見られました。

#### 4. まとめ

以上の結果から、8月下旬現在の道南太平洋周辺海域におけるスルメイカは、「分布密度は全体的に低く、魚体サイズは昨年と同じか、やや大きい。」と考えられます。

(文責 : 函館水産試験場資源管理部、TEL : 0138-57-5997 直通、FAX : 0138-57-5991)

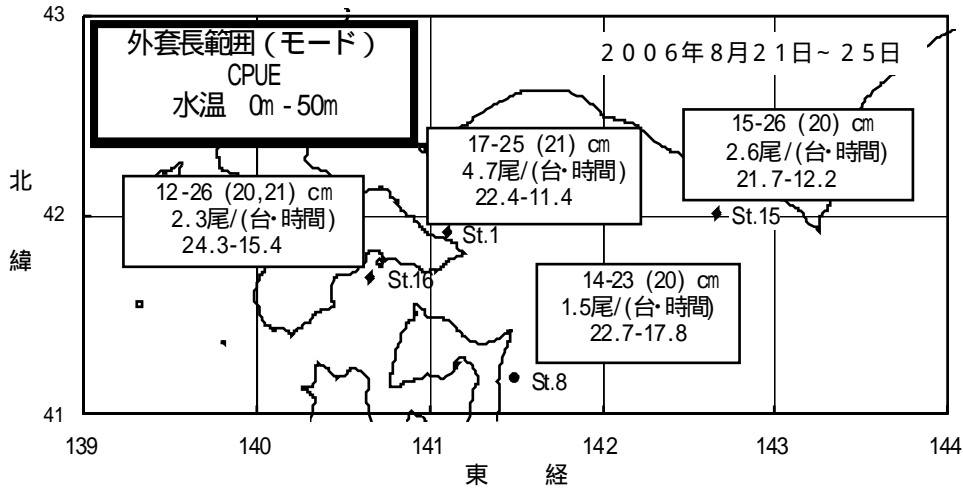


図1 道南太平洋スルメイカ南下期調査結果(2006年)

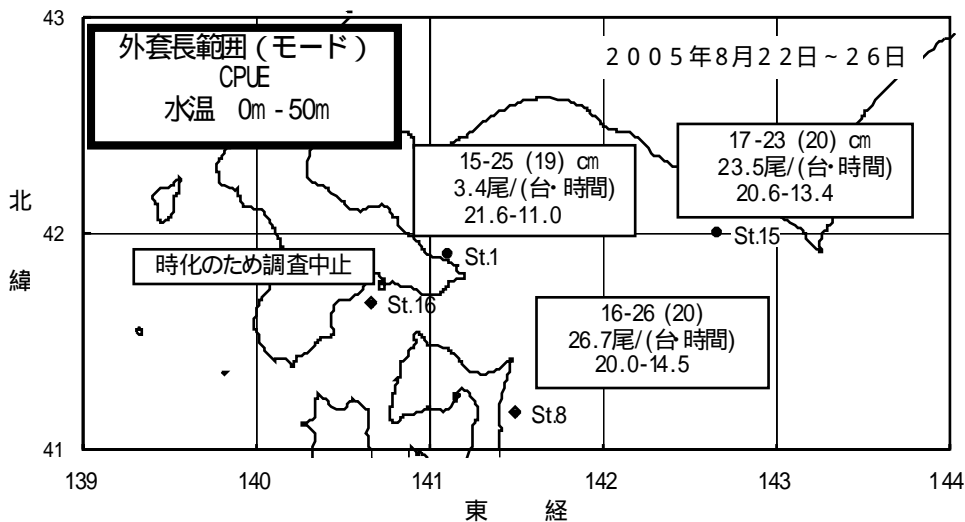


図2 道南太平洋スルメイカ南下期調査結果(2005年)

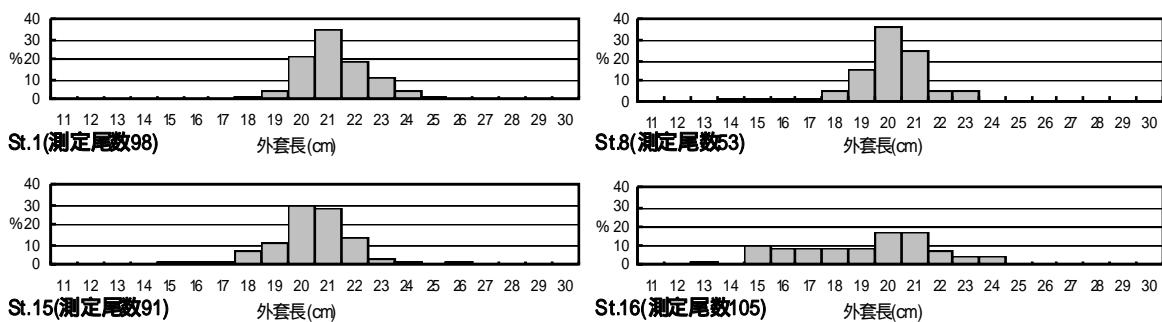


図3 2006年の各調査点におけるスルメイカ外套長の分布

表1 道南太平洋スルメイカ南下期調査時のCPUEと外套長の経年変化

調査を実施した点の	2001(H13)	2002(H14)	2003(H15)	2004(H16)	2005(H17)	2006(H18)	
平均CPUE (尾/台・時間)	47.1	19.2	23.2	13.9	17.9	3.3	
外套長の範囲(cm)	17-29	18-28	12-27	15-26	15-26	12-26	
外套長モードの範囲 (cm)	20-22	22-24	15,21	20-23	19-20	20-21	
水温 ( )	表層	20.1-23.4	19.1-20.1	18.7-21.3	18.7-22.5	20.0-21.6	21.7-24.3
	50m層	12.1-17.4	11.3-18.4	10.8-16.6	12.1-18.3	11.0-14.5	11.4-17.8